

社会科シラバス 高校2年

1. 学習の到達目標と評価の観点

(科目) 歴史総合	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	1 単位	第2 学年	『わたしたちの歴史 日本から世界へ』山川出版社（教科書） 『問いからはじまる歴史総合』東京法令出版（図説）
学習の到達目標	・地域の別にかかわらず、人間を取り巻く環境や背景、現代的な諸課題の形成過程について、近現代史の考察や資料の読み取りを通して真理を追究していこうとする姿勢や、得られた知識・技能を実社会に役立てようとする意欲を養う。〔Science〕 ・世界全体を俯瞰するグローバルな視点と地域の問題を掘り下げて把握するローカルな視点を併せ持つ柔軟な思考力を養い、それに関する自分の考えや価値観を世界に向けて発信できるとともに、国際社会の中で自身に求められている役割を認識する。〔Global〕 ・探究心を持ち、物事を論理的にとらえ、現在世界各地で起きている問題を歴史的な視点から読み解き、よりよい解決策を導き出す。また、その解決策を実行するために、他者の意見を尊重しながら協働し、平和な世界を築く人間になる。〔Liberal Arts〕		
評価の観点	現代的な諸課題が「いつ」「どこで」「どのようにして」生じたのか、疑問を持ち、知識を活用し、他者と協働しながら、その疑問を解決しようとする姿勢がある。＜主体性・多様性・協働性＞		
	日本の歴史と世界の歴史を学びながら、それぞれの出来事をくらべたり、たがいのつながりや影響を探究し、自分の考えを発信することができる。＜思考力・判断力・表現力＞		
	現代的な諸課題の形成過程について考察したり、資料を読みとるために必要な知識・技能を身につけられている。＜知識・技能＞		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

A：「十分満足できる」状況と判断されるもの

B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの

C：「努力を要する」状況と判断されるもの

D：未提出，未実施

2. 学習内容及び評価方法

時期	単元	学習のねらい・到達目標
第2学年 1学期 期末まで	第2部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 国際秩序の変化や大衆化への問い 第3部 グローバル化と私たち グローバル化への問い ★スタディーサブリ 「ベーシックレベル歴史総合」 【現代編】第12講 戦後の 国際秩序とアジア独立 【現代編】第13講 冷戦の 展開と世界経済	・戦後国際秩序、安全保障体制やブレトンウッズ国際経済体制を説明できる。 ・冷戦の始まりとその経過を理解する。 ・日本の戦後改革と日本国憲法の特徴を理解し、日本の独立とその国際政治的な背景を理解する。 ・第三世界の登場の国際的な背景を説明できる。 ・冷戦の固定化と「雪どけ」、再度の冷戦の激化の過程を理解する。 ・55年体制と安保闘争、高度経済成長の光と影を、冷戦構造から理解する。
第2学年 2学期 期末まで	第3部 グローバル化と私たち グローバル化への問い ★スタディーサブリ 「ベーシックレベル歴史総合」 【現代編】第14講 冷戦の 終結と社会の変容	・ベトナム戦争へアメリカが突き進んだ背景について説明できる。 ・1970年代以降のブレトンウッズ国際経済体制崩壊後の経済構造の変化について理解する。 ・日本の経済大国化とアジアの経済成長を国際経済の変化から説明できる。 ・東側諸国の社会主義の停滞と西側諸国の新自由主義を国際経済体制の変化から理解する。 ・冷戦の終結の経過について理解する。
第2学年 3学期 学年末まで	第3部 グローバル化と私たち グローバル化への問い ★スタディーサブリ 「ベーシックレベル歴史総合」 【現代編】第15講 グロー バル化と現代の諸課題 テーマ学習	・冷戦後の地域紛争、EUに代表される地域統合、環境問題や民族紛争など現代世界の諸課題、日本の諸課題について理解する。 ・歴史総合の総まとめとして、第一次世界大戦中のイギリスの多重外交とパレスチナ問題、ドイツにおけるファシズムの成立、キューバ危機とベトナム戦争など、近現代史の重要事件にスポットを当てて、歴史を学ぶ意義について考える。

★スタディーサブリ動画はやや内容が詳しいものになっているので、流れなどを確認するなどでの活用が望ましい。

評価の観点及び内容	評価方法（具体例）
教員の発問に対し、積極的に取り組んでいる。周りのクラスメイトと主体的に意見の交換をする様子がみられる。＜主体性・多様性・協働性＞	loilo 課題（提出）

設定された課題に対する自分の考えを、他者にも読み取れるように適切に説明することができる。＜思考力・判断力・表現力＞	定期考査・loilo 課題(内容) 夏休みレポート課題
歴史的な知識を身につけられている＜知識・技能＞	定期考査・loilo 課題(内容)

【成績評価の概要について】

(1)学期における評価の対象

- ①各学期に実施する期末考査（80％）
→概ね8割の配分で評価素材とする。
- ②授業冒頭に取り組むロイロ課題（ロイロゲーム機能のテスト）
- ③単元の確認のために取り組む論述ワーク（ロイロ提出箱に提出）
→平常点(授業内取り組み、提出物等)として概ね2割前後を評価材料とする。
- ④夏休みレポート課題（大学入試における総合問題形式を意識した内容）
→提出があれば基礎点の25点は加点する。提出期限は2学期最初であるが、年度末までに提出があれば、最低限の加点を反映させる。

★定期考査未受験の場合、試験実施後に、ロイロから該当生徒に対して試験問題を送り、期日までの提出があれば、参考素材として素点化(ただし欠席得にならないよう考慮する)し成績に反映させる。提出がない場合は、定期考査は0点となり、②③のみの要素で評定算出が可能な場合は学期評定をつけるが、算出が難しい場合は、学期評定は空欄となる場合がある。ただし、公欠による試験欠席の場合はこの限りではない。欠席による 未受験の考査提出は、年度末まで設けるので、当該学期での提出ができなかった場合でも、年度末までに提出ができれば学年評定には反映される。

(2)学期評定の算出方法

学期ごとに、上記(1)を総合して評価を行う。
一部、論述課題などについては、〔①文章展開／②条件設定／③文字表現／④表現力〕などの観点を設け、ルーブリック評価をしたものを点数化する。授業時間内の提出を基本とし、授業後の提出に関しては基礎点のみの加点とする。

(3)学年評定の算出方法

- ①定期考査(年間3回)、
- ②ロイロによるゲーム機能テストへの参加
- ③授業単元確認のための論述課題
- ④夏休みレポート課題